

I 事業の概要（地域の実情含む）

「いわての復興教育推進事業」の指定を受け、内陸部と沿岸部の生徒の交流を通して、復興教育に対する理解や関心を深めることを目的とし、軽米中学校1年生70名と普代中学校1年生15名との交流学習を行った。

II 取組の概要

1 軽米中学校、普代中学校交流学習

(1) 普代水門、太田名部防潮堤見学

普代分署の方から3つの内容の話をいただいた。

- ① 普代水門、太田名部防潮堤の役割について。震災時においては、普代水門と太田名部防潮堤が住宅地や集落中心部への津波被害を防いだため、死者はゼロ人。被害民家もなく、沿岸部で機能した数少ない水門、防潮堤であったこと。
- ② 平成23年3月11日に発生した東日本大震災時に消防団員がどのように行動し津波から村を守ったのか。
- ③ 自然災害の発生は残念ながら防ぐことはできないので、今災害が起きたならばどう行動するか常に考えながら生活し、「自分の命を守る」ことをしてほしい。



太田名部防潮堤見学

(2) 村漁業協同組合でのわかめ芯抜き作業

沿岸での生活のごく一部ではあるが、体験作業としてわかめの芯抜き作業を行った。内陸の軽米中学校の生徒たちは初めての経験だったので、一つ一つの作業を確認しながら真剣に取り組んでいた。普段何気なく口に入れているわかめだが、たくさんの手間をかけて加工されていることを学んだ。普代中の生徒は小学校で経験している作業であったが、楽しそうに軽米中学校の生徒に教えながら作業に取り組んだ。また、その他の海産物を保存するための冷蔵庫で-30度を体感した。



普代水門見学



わかめ芯抜き作業

(3) 交流学習

くろさき荘で相互交流会を行った。

普代中学校からは、映像を交えながら一年間の生活の様子を紹介すると共に、東日本大震災の様子や、津波を想定した小学校中学校合同の避難訓練の様子などが紹介された。

東日本大震災に関しては、当時の記憶はあまり残ってはいないけれども、地域や支えてくださった多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、これから自分たちが地域のために何ができるかを考えていかなければならないという思いが発表された。

軽米中学校からは、今回の交流学習が始まる前から行われていた沿岸訪問学習の経緯が話された。軽米地区は昔から洪水の被害にあうことが度々あり、防災に強い関を持っていたことがきっかけで、沿岸の防災も学習するためにこの学習が始まったことが話された。また、学校で行われている防災学習の内容が具体的に紹介された。



くろさき荘での交流学習

(4) 普代浜清掃

軽米中学校が例年行っている普代浜清掃に普代中学校も参加して行った。年々整備され、特に拾わなければならないごみは少なかったが、両校の生徒たちは、普代浜を清掃しながら、浜の美しさや海の恵みを思いながら楽しそうに清掃に取り組んだ。

(5) 生徒の感想

① 明治、昭和に大きな津波を経験し、当時の村長さんが「二度あったことは、三度あってはならない」と言って普代水門と太田名部防潮堤を作ったそうです。説明をしてくれた方が、大津波を目の前で見て、もらった命だか

ら楽しいことをしようと思うようになったと聞いて、僕ももらった命だから自分の命は大切に自分の好きなことを全力で楽しみたいと思いました。

② 私たちは、東日本大震災のことはよくわかっているとは言えません。震災当時の話を聞き、普代村が奇跡の村と呼ばれる理由が少しわかったような気がしました。

私は家族がいてあたりまえだけど、震災で家族を亡くしつらい思いをしている人がいることを改めて感じました。たくさんの人の思いや生き方に触れ、自分の考え方が変わったと思いますとてもいい経験でした。

③ 軽米中学校との学習では、防災のことだけではなく様々なことを学ぶことができました。軽米中学校の発表は原稿を読むのではなく聞く人のほうを見て堂々とした発表でした。また、合唱も声量があつてとても上手でした。違う学校同士の交流はとても刺激になると感じました。

III 取組の成果と課題

1 成果

- ・軽米中学校の生徒は、津波に対する備えや沿岸で生活する人々の様子を間近に見学、体験したことで、防災や復興の現状について理解を深めた。また、自然災害はどこでも起こり得ることなので、事前の心構えや準備が大切であることを改めて学んだ。
- ・普代中学校の生徒は、消防署の方から改めて災害時の様子を詳しく聞き、津波の恐ろしさを再認識すると共に、津波の被害を最小限に抑えた普代水門、太田名部防潮堤に感謝の念を抱いた。また、わかめの芯抜き作業や普代浜清掃をしたことで、自分たちが住む地域の現状を再認識した。更に、お互いの学校での防災学習についてや生活の様子を紹介しあうことで、復興教育に対する理解や関心を深めることができた。

2 課題

- ・災害（特に津波）に対する認識が内陸と沿岸では全く違うと感じる。限られた時間ではあるが、東日本大震災の教訓を伝えると共に、様々な災害に対して自分たちの「命を守る」ために今できること、災害時にどう行動すればよいか等を交流できる学習へと進めていきたい。